

福岡市生活自立支援センター支援事例の検討について

【事例1】生活費が足りない(どれくらい足りていないかもわからない)

1.相談者

60代女性、2人世帯(主、40代の息子)

2.状況

手持ち金 不明

住まい 持ち家マンション管理費 2.3万円。

世帯収入 11.6万円/月(主の年金 7.1万 息子の障害年金 4.5万)

- ・主の年金と長男の障害年金で生活。
- ・主は足の筋力低下し転倒繰り返し外出困難。要支援 1。
- ・長男は糖尿病合併症で下肢切断。車いす+義足使用。身障手帳 2 級。
- ・銀行や買い物に行けず、通帳残高不明。
- ・いきいきセンターより主のヘルパー利用を提案するがサービス料かかるからと拒否。
- ・主も長男も福祉サービス利用ないが困り感なし。
- ・督促状・通知書など届いているが、整理されておらず滞納状況不明。

3.支援内容

- ・家計相談を実施。家計状況の把握と福祉サービス料の捻出が可能か確認する
- ・いきいきセンターと連携、また障害者基幹相談支援センターへの繋ぎを検討。
- ・息子に対する支援を検討すると共に、他機関協働で支援を進めていく方針。
- ・再度自宅訪問し、息子も含めた家計状況の確認と現在の困りごとについて聞き取りを続ける。

4.課題

- ・主は息子の分も含めお金の管理は自分でしていると話す、息子の口座は別にあり世帯の家計管理ができていない。1年前より通帳の記帳もできていない。
- ・情報開示に限りがあり、状況把握が難しい
- ・息子についても主と同様、困り感に乏しく介入が難しい

【事例2】家を出て一人暮らしをしたい

1.相談者

40代男性、3人世帯(70代の両親)

2.状況

区障がい者基幹支援センターからの紹介(面談時同席)

手持ち金(収入)不明

住まいは親の持ち家(ローン完済)

2～3年前より無職

- ・以前より父親は飲酒すると暴言・暴力あり。
- ・主はコミュニケーションが苦手。
- ・理解に時間がかかり特性がある印象だが手帳や診断はなし。
- ・主も母親も主の障害特性の受け入れや自覚がない。
- ・主と父親の同居は難しいと判断し、父親が入院した病院のMSWからいきいきセンターへ介入依頼⇒いきいきセンターから障がい者基幹センターに繋がる。
- ・実家を出る費用を貯めるため就労希望はあり。
- ・これまで一般就労実績が複数あり、軽作業、ピッキングが多かった(最長4年)

3.支援内容

- ・一般就労を模索するためセンター就労支援利用受付。
- ・今後の支援の中で、就労準備・認定訓練の検討も視野に入れて対応。
- ・主との関係性の構築、受け入れが進んだ時点で病院受診、手帳取得、障害者就労も検討予定。

4.課題

- ・幼いころから父親に暴力をうけることがあり、今後も同居が続くと大きなトラブルになる可能性あり。
- ・家を出て一人暮らしをするための初期費用がない。
- ・仕事が見つからない。
- ・家で一人暮らしの費用を貯めても父親から奪われる。
- ・就職、一人暮らしのための保証人と緊急連絡先になってくれる人がいない。